平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091800070		
法人名	社会福祉法人　全和会		
事業所名	グループホーム　鯰田		
所在地	福岡県飯塚市鯰田１７９１番地2		
自己評価作成日	平成23年1月28日	評価結果確定日	平成23年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　アーバン・マトリックス　評価事業部
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6　北九州ビル8階
訪問調査日	平成23年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

その人らしい本来の姿で気兼のない暮らし、生活ができるように職員全員が、
本人、家族との関わり合いをもてる支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

母体法人は、グループホームを始めとする高齢者福祉施設や、障がい者福祉事業を運営している。それ故、研修計画や書類等には、蓄積されたノウハウを垣間見ることが出来る。しかし、職員一人ひとりは、それに甘んじることなく、地域密着型サービスの意義を踏まえ、グループホーム独自のサービス提供のあり方、地域における事業所の存在意義と、真摯に向き合い、入居者一人ひとりの思いにそった支援を日々模索している。職員間の連携もよく、業務に対する意見交換や、提案も定例会議の中で、活発に行なわれている。職員は、日常生活を大切にし、日々の暮らしの中から、利用者の興味や潜在化するニーズを探るとともに、運営推進会議を利用して地域へ情報発信を行い、災害時の防災訓練や行事参加等、広く呼びかけを行なっている。また医療面では、協力医療機関の医師の事業所に対する理解が深いこともあり、日頃の往診を始め、緊急時、看取りと、密接な協力関係が築かれ、一人ひとりの安心出来る暮らしの大きな支えとなっている。以上、現状と誠実に向き合いながら、独自性を発揮し、今後が楽しみな事業所である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれ現場の思いを統合した内容となっているので職員全員が、日々の実践に活かしている。	設立時に、職員全員で、思いを出し合い、話し合いながら、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作り上げている。来訪者の目に留まりやすい玄関に掲示するとともに、会議時には、振り返りを行い、日々の業務で活かせるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入　地域行事の案内等については、出来る限り参加するようにしているが、現在は出来ず、今後小さな事から始めて地域の方々と交流に努める。又、ホームでの行事には、地域の方々の積極的参加も増えている。	近隣からの入居者が多く、家族や友人知人、自治会長、民生委員を通してのつながりはある。自治会にも加入している。地域行事への参加が出来ていないが、事業所内行事には、地域からの参加者が増加している。毎年、餅つきを行い、餅を配っており、好評を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の方々が、近隣からの入居が多いため　　家族の来訪も多く地域の方々とのつながりもあり日々の実践に活かされている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を開催　地域の方と利用者の家族にも参加して頂き行事案内、報告だけでなく色々な側面からも情報や意見交換の場として活かされている。	2ヶ月に1回実施。運営状況の報告や行事案内、自治会長への防災協力依頼等を行い、情報・意見交換を行うとともに要望や助言を求める場として活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの運営基準など疑問に思った事は、市担当者に聞くようにしている。 又、月1回の市の相談委員の訪問があり行政との連携を高めている。	平素から、電話や訪問により、疑問点を尋ねたり、相談出来る関係が築かれている。介護保険課や、月1回訪問の福祉相談員だけでなく、生活保護制度利用の入居者もいることから、担当者との連携も日常的に行なわれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には、日中施錠してはいけない事は、　　職員全員理解はできているが玄関先が、国道になっており帰宅願望の激しい利用者がおられる。　職員が、手薄になったときは、危険を伴うので状況によっては施錠する事もある。	マニュアルの整備や、事業所内で、身体拘束や虐待防止に関する研修を実施し、身体拘束について、職員間で周知に努めていることがうかがえる。	事業所の立地環境や、入居者の状態、家族の要望等を踏まえるならば、「身体拘束」に関する理解の徹底と、記録の整備は重要と思われる。その点について、一層の取り組みを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会や研修の中で虐待防止法に限らず日々学んだ事を実践している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居者に権利擁護を利用されてる方がおられたので、それを期に職員全員が、対応できるように制度の理解を高めていきたい。	以前、制度利用の入居者がいたことから、職員は、制度について、その重要性を理解しており、更なる周知の必要性を認識している。	家族に向けて、パンフレットや資料等を閲覧可能な状態にする等、情報発信を期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	利用者、家族の方々が、理解納得して頂くように契約の締結の前に十分な説明をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	週に1回程度家族の方々が、面会に来られるのでその都度利用者の健康状態や事務的報告を行うその際家族からの意見、要望など気軽に話せるように声かけえをしている。その時の意見等を職員会議で検討し運営に反映していけるように努める。	普段から、意見や要望を出しやすい雰囲気作りを行うとともに、月に1回福祉相談員の訪問日を設けている。家族については、利用料の支払いを振込みにせず、直接支払いにすることにより、定期的な面会･訪問日を設け、コミュニケーションを図りながら、意見の収集に努めている。出された意見は、随時、及び月例の会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の中で職員の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させ実践していく。	職員の意見や提案を述べる場として、月に1回、職員会議を設けている。職員へのヒアリングから、率直に意見や提案を述べ易い雰囲気であることがうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	能力に応じた勤務状況を把握し個々のやりがいをみつけ向上心をもてるように職場環境、条件の整備に努める。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集･採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別はとわないが、勤務内容によっては話し合いとなる場合がある。又、働く職員に対しても自主的に研修や資格などの希望があれば事業所側も積極的に受け入れる体制を取れるように十分配慮している。	募集･採用にあたり、性別や年齢等を理由に採用対象から排除されることはない。実際に、幅広い年齢層の職員が勤務している。また研修案内や、それに伴う勤務調整もなされ、職員のスキルアップの機会が確保されている。	
14	(10)	○人権教育･啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育に関する内部研修を定期的に行い職員全員が、毎日の現場の中で、利用者に対する人権尊重を心がけている。	倫理規定を設け、人権の尊重を謳うとともに、年間研修計画に位置付け、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日の業務の中で、職員のスキルアップを図っており現場を重視した働きながらのトレーニングを進めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームでのお互いの交流を図りサービスの質の向上を高めていきたい。。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設での生活に馴染んでもらうように入居前に本人との面談を行い、不安な事要望等を聞き安心して生活出来るように信頼関係づくりに努める。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学、面談を行い家族等の不安、要望を聞き施設での生活が、安心して頂けるように家族等との信頼関係づくりに努める。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談により状況や要望の把握にし必要となる支援に努める。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年培ってきた個々人の人生、経験その人らしさを十分出せる場として又、人生の先輩として職員も学び共有できる関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族等との在宅生活での絆を大切にしながら助言、情報を聞き職員共に本人、家族等を支えていく関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの馴染みや住み慣れた家との交流が、途切れないように外部からの訪問、外出等　常時オープンに対応できるように支援に努める。	近隣からの入居者が多いため、自宅への帰宅や、家族･友人の来訪等がし易い、途切れない支援に努めている。家族に協力を仰ぎながら、外泊や墓参り等を行なっている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々人の性格等を把握し利用者同士の間に職員が、さりげなく関わり互いに無理のない関係を保てるような支援に努める。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで契約終了後も必要に応じて経過観察を行い家族等の相談、支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中利用者と接する事で思いや意向の把握に努めている。本人、職員間だけに偏らず　家族の参加協力も重要である。	日常会話や何気ない言動の中から、思いや意向の汲み取りに努めている。家族や、入居前に利用していた関係機関等からも情報収集を行い、本人本位の検討を行なっている。	アセスメントは生活歴や嗜好等の記載は薄い印象を受ける。しかし、実際には職員間で、入居者一人ひとりの生活歴等の情報は把握されている。より、明確な情報共有、及び効果的な課題抽出の観点から、アセスメント内容について検討を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に」本人、家族等により面談、アセスメントを作成又、他の事業所等の情報提供を把握、長年の生活暦を崩さないように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の言動、行動を観察し変化を見逃さないように一人ひとりを把握するように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族等の要望等を伺い担当職員の意見を取り入れ、話し合い作成している。 又、必要とあれば、かかりつけ医の助言、意見等を聞き個別の介護計画になるようにしている。	計画書は、アセスメントを基に、家族や（担当）職員、医師の意見を踏まえ、作成している。見直しについても、本人の状態を踏まえ、日々の記録や担当職員の意見をもとに、定期的に行ない、より本人本位の支援に努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の実践の中で気づきや疑問に対してそのつど朝の申し送りで検討し介護計画の見直しを行い実践へ反映している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のケアプランにそった支援が主だが、状態、状況によって日々変化している。その都度対応できるように取り組んでいけるように努力したい。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の家族、知人の方々が、面会に来られ利用者と一緒に外出され畑仕事などされたりと生き甲斐を感じ楽しまれることが、多々ある。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療への受診を支援している。殆どの利用者が、月2回の定期の内科医の往診をおこなっている。日頃の健康管理もかかりつけ医との連携をとっている。	本人･家族の意向を尊重し、かかりつけ医への受診支援がなされている。また関係医療機関とは、医師の事業所への理解も深く、日頃の往診だけでなく、緊急時についても非常に緊密で良好な協力関係が築かれている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者と日常の関わりの中で、異変など気づいたときは、速やかにかかりつけ医の看護士等に連絡を取り対応できるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が、入院された祭はかかりつけ医との入院先の病院関係者との情報交換を密にし本人、家族等が、安心して治療に専念できるように支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年春初めての看取りを迎えた、24時間の医療体制の中本人、家族が、安心して最期を迎えれるように職員全員が一丸となって支援させて頂いた。これを期に今後も地域、医療関係者と共に支援に取り組んでいく。	協力医療機関との連携が良く、本人･家族と話し合いを重ね、思いや方針を共有しながら、職員全員で取り組む姿勢が見られる。実際に看取りを体験する中で、職員一人ひとりにより確かな意識が芽生えた様子がうかがえる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し職員全員が、把握し、実践力を身につけるように努める。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に非難訓練を実施している。地域の方々にも運営推進会議等で協力をお願い声かけを行っている。又、日々の生活の中で常に緊急時に対しての緊張感をもつ事を認識している。	定期的に訓練を実施している。消防署の立会いを始め、地域にも協力を呼びかけているが、実現には至っていない。設備面では、スプリンクラーの設置やオール電化にする等、対策が図られている。	家族に消防署職員がいたり、自治会長が協力的である等、地域資源活用の可能性が十分にある。この点を踏まえ、より実情に即した対策を期待します。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、特に声かけや対応には十分注意を払っている。個人情報に関しては、事務所に保管、管理をしている。又、プライバシーに配慮した対応に努めている。	事業所独自に倫理規定を設けるとともに、年間研修計画に位置付け、プライバシーの尊重に努めている。特に言葉遣いには配慮するよう、職員間で意識付けを行なっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい考え方、自立できる部分を引き出し何を希望しているのか、たとえば調理の補助等、自分で出来た時の達成感や満足感を持ってもらえるように支援に努める。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	長年暮らしてきた生活ペースを出来る限りくずさないように一人ひとりに添った生活リズムを保てるように努める。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣服の調整を行い散髪も無理強いはしないが、定期的に手入れをおこなうようにしている。その人らしい身だしなみに配慮し支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味見をしてもらったりじゃがいもの皮むき、下ごしらえや食器の準備等の手伝い、食後の片づけを積極的にして下さる。又、職員も同じものをたまには、同じテーブルで食べる事をしている。	一人ひとりの好みや状態にあった食事を、調理方法や献立に工夫を凝らしながら提供している。準備や後片付けについても、出来る範囲で各自が役割を担っている。また弁当持参で公園で食べたり、外食に出かける等の楽しみの機会も設けている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を主にした内容で、一人ひとりに合った、又その時の状態で量や栄養バランスを提供している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアの声かけ、見守り介助のいる方は、介助行い、その際口腔内、義歯の状態の確認をして清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを職員が把握し、声かけ誘導を行いその際自尊心を傷つけたり気分を損なわないようにしている。又、夜間のパット交換時は睡眠の妨げにならないように速やかに行う。	プライバシーに配慮しながら、 一人ひとりの状態やパターンに応じた支援を行なっている。日中は、声掛けにより、トイレ誘導を行い、自立に向けた支援に努め、夜間は睡眠を優先し、パッド交換のみとしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆どの利用者が、緩下剤を服用されており日々調整している。又、日頃から食物繊維や水分を多く摂取したりレクリエーションで体操をしたりと工夫に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っており利用者の体調や希望を確認しその人のタイミングにあわせるように支援している。又、日頃、見えない部分などの身体の観察も行い変化あれば、すぐに対応するように努める。	基本的に、午後、1日おきに入浴を行なっている。入浴を好まない方についても、無理強いはせず、一人ひとりの習慣や好みを尊重し、ゆったりとくつろげる時間が過ごせるよう努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビを観ながらではないと眠れない利用者もおられる。昼寝をしないと落ち着かない方など、一人ひとりの生活習慣を大切に安心して眠れるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、利用者全員の服薬内容を把握、理解しており変化あればすぐに、かかりつけ医に報告し状態変化の確認に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の性格や生活暦を把握し、その人らしい楽しみを提供する。たとえば、歌が、好きな方にはカラオケをしたり俳句が得意な方には張りや喜びのある環境作りに支援できるように努める。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、地域の周りを散歩したりドライブへ出掛けたり又、帰宅願望が激しくなったりすると家族に相談し日帰りで自宅へ帰られたり職員が、付き添って行くなどの支援をしている。	天候やその日の都合に応じて、散歩やドライブに出掛けている。また外食や、1泊旅行(昨年円まで)を実施している。今年は、日帰り旅行を計画中である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆ど利用者がお金を持つ事が、不可能である。3人の利用者は、家族との話し合いでお小遣い程度は、手元にもたれているが、施設が、預かり金として管理し支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が、入院された祭はかかりつけ医との入院先の病院関係者との情報交換を密にし本人、家族等が、安心して治療に専念できるように支援している。希望した際は、職員が電話をかけ本人に代わったりかかってきた祭も本人に代わり家族と気兼ねなく話ができるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けのある食堂兼居間が、開放的な共用空間である。台所から食欲をそそる美味しそうな匂いがして食事の時間が、身体で感じる。又、穏やかな音楽など流れて心地よい午後のひと時を過ごせる空間です。季節感じさせる掲示板の内容等の工夫にも力をいれている。	食堂兼談話室は、採光良く明るい。入居者と職員が一緒に作った季節のちぎり絵や行事の写真が掲示され、彩りを与えている。歌好きな人が多いため、要望に応じ、BGMを流す等、リラックス出来るよう配慮がなされている。床暖房が完備されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後心地良く居眠りのできる空間作りをしている。傍らではテレビを観たり、気の合ったもの同士お喋りをしたりと、それぞれの自由に過ごせるような支援に努める。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	就寝時ベットではなく布団での生活に馴れ親しんでおられる利用者などは、居心地のよいようにあわせたりと落ち着いた穏やかな生活送れるように工夫支援に努める。	本人の意向を踏まえ、使い慣れた物や好みの物を持ち込んで、本人本位の居室作りがなされている。本棚に並んだ書籍や、持ち込まれた調度品からは、本人らしい暮らしを尊重していることがうかがえる。一方で、個人差も見られる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや入浴、出来る限り自力でできるように施設内外の環境整備に努め自立心を無くさず又、居室の前に写真入りの表札を下げて家として感じてもらえるように工夫している。		